

誇りを持って次世代へ

今号では、令和6年度の施政方針や主要事業などを紹介します。



和6年度の当初予算編成にあつては、「第2次にかほ市総合発展計画（後期基本計画R4～8）」、「にかほ市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の主要施策および「市長の2期目公約（7分野25項目）」に取り組むために予算を配分しました。すべてにおいて、より効果的に資源（財源、人材、時間）を活用するために、事業の統廃合や業務の効率化などを念頭に置きながら、優先順位を見極め諸施策を推進

するものとします。また、今後必要とされる事業の実施については、補正予算等において適宜検討していきます。鳥海山と日本海に抱かれ、自然豊かな「にかほ市」のさらなる飛躍に向けて、行政はもちろんのこと市民の皆さんとともに「力」を合わせ「オールにかほ体制」で、未来に夢をもち、次の世代に誇りをもって引き継ぐことができるまちづくりに全力で取り組んでいきます。



快適に くらせる まち

にかほ市防災会議を開催し、にかほ市地域防災計画を更新します。これは、国の防災基本計画および秋田県地域防災計画の改定内容に適合させるものです。また津波ハザードマップを改定するほか、継続事業の防災行政無線強靱化事業については、象潟地域の屋外放送設備の更新を行います。

7つの基本方針

第2次にかほ市総合発展計画の基本計画に掲げる7項目

子育て しやすい まち

母子保健・児童福祉の両機能を一体的に運営するため「こども家庭センター」をスマイル内に設置し、妊産婦や子育て世帯等に対し切れ目のない相談支援を実施します。今年度は事務室等の改修が必要なため、金浦保健センターとスマイルと場所が離れていますが、組織上先行して統合を図ります。

高齢者が 元気な まち

令和7年4月1日から介護保険の保険者が「本荘由利広域市町村圏組合」から「にかほ市」に変わります。適切な時期について関係各所と協議を重ね、さまざまな懸念を考慮した結果、開始時期を判断しました。令和6年度は、システム分離構築作業のほか、単独保険者化に向けた準備を進めます。

若者に 魅力ある まち

各年代に合わせた職場見学や企業説明会等の開催のほか、地元企業の魅力に触れる機会の充実を図ります。また中小企業を対象に、求人サイト掲載料やHP作成費用の一部補助等を行います。さらに、コミュニケーションスキルなどの向上に繋がるセミナーを開催し、若者の地元定着を促進します。

人と 文化が 豊かな まち

市内博物館系4施設が共同連携を図る「にかほ市デジタルアーカイブ事業」に着手します。収集資料をデータベース化しデジタルアーカイブとしてインターネット上で公開することで、研究者やメディア等も活用できる仕組みづくりを目指し、この取り組みによる関係人口の増加など活性化を図ります。

主な施策

稼ぐ力が 強い まち

地域農業の中心となる担い手と新規就農者の育成・確保に努めるとともに、稲作と高収益作物の複合化に必要な機械・設備の導入支援を継続します。また新規事業として、クマやイノシシなどの有害鳥獣を人里や農地に近づけないよう、電気柵の設置支援や不要果樹等伐採支援を実施し、被害を抑制します。

市民と行政が 協働で つながる まち

仁賀保高校の存続に向け協議会を設置し、学校内外をつなぎ、本校と一緒に魅力ある高等学校としてアピールしていきます。脱炭素社会の実現に向け地域の再エネ目標や具体的な取組みを検討します。「地域課題を解決し、地域の魅力と質を向上させる」という視点でビジョンの作成等を進めます。

教育行政の 基本方針

「超にかほ一体」を合い言葉に、3年目を迎える「にかほ市教育大綱」を基本にこれまでの地域学などを礎として、より一層本市の3地域がそれぞれ持っている教育資源をフル活用し、協働して教育施策に取り組み、にかほ市の教育が秋田県の「ふるさと教育」を牽引していきけるよう努めたいと考えています。

学校教育においては、学習のきっかけに「わくわく感」「ドキドキ感」「はてなのマークが頭をよぎる」「楽しくて仕方ない」など、楽しいの「楽」（らく）と学びの「学」（がく）を意識した「楽（らく）×学（がく）」を教職員や指導者が意識して、教育活動を展開できるように工夫と改善を進めます。

少子高齢化が急激に進行している現在を私たちはとかくマイナス思考で捉えてしまいがちになります。少子化による学校再編、高齢化による孤独や孤立、そしてコミュニティの脆弱化などは、暗いイメージに関連付けてしまいます。

しかし教育委員会は、この現状を決して悲観していません。子どもたち一人ひとりの個性を把握し、長所を伸ばすきめ細かな教育を展開できるチャンスと捉えています。また高齢者が学校というコミュニティで、子どもたちとのふれあいをとおして自身の子ども時代を思い出し、生きがいを再認識できるような新しい仕組みづくりなどを考え、既存の学校機能の概念を超えて学校の活性化に取り組みます。こうした想いも一つの要素に、学校環境適正化そして学校再編計画を推進していきます。

教育委員会は、教育行政を預かるものとしての「責任の重大さ」を改めて深く認識しています。令和6年度はさらに英知を結集して、「未来を拓く教育」「地域に根ざし信頼される教育」を進めるために全力で努力していきます。

